腸管出血性大腸菌感染症について

☆菌の特徴

人の腸内にいる大腸菌のほとんどは無害ですが、一部は下痢等をおこすことがあります。これを病原性大腸菌といい、また、この病原性大腸菌のうちベロ毒素を産生するのが腸管出血性大腸菌です。牛や豚などの哺乳類が保有します。強い感染力で、わずか 100 個程度で病気を発症します。（他の食中毒では、10 万個以上）この菌は、酸に強く、胃酸の中でも生き残り、腸管内で増殖します。

☆感染して症状が出るまで（潜伏期）

２～14 日（平均４日）

☆感染経路

菌に汚染された食べ物を口にしたり、患者の便に含まれる菌が手指や食器などから口に入ることで感染する「経口感染」や「糞口感染」です。

☆症状

潜伏期の後に下痢（水様便・粘血便など）、腹痛などをおこします。

重篤な合併症として症状が出てから２週間以内（多くは５～7 日後）に溶血性尿毒症症候群（血小板減少、溶血性貧血、腎機能障害）をおこすことがあります。

また、菌を持っていても全く症状がない場合があり、これを「無症状病原体保有者」といいます。他の人への感染の可能性はあるので、注意しなければいけません。

☆治療

対症療法が中心です。症状や病期によって抗菌薬が使われる場合もあります。薬の服用については、医師の指示に従って下さい。

☆接触者健診

接触のあった方について、検便検査を実施させていただきます。

なお、下痢など症状のある方は、あらかじめ医療機関に相談した上で受診しましょう。

検査結果は、３～５日で判明しますが、トイレの後や食事前の手洗いはしっかりしましょう。

☆感染しないための日常生活での注意

手洗いが重要です。とくに飲食前、調理前、トイレの後は、石けんと流水で手を十分に洗いましょう。

お問い合わせ・相談先　　北九州市保健所　保健予防課

（０９３）５２２－８７６４

☆下痢などの症状が出ている方は、さらに下記にご注意ください。

1　トイレ

排便後は、おしりを拭いていない方の手で、水道栓やトイレのノブを扱い、必ず手洗いをしましょう。石けんなどを使って手をよく洗い、水で十分にすすぎます。トイレのノブ、水道栓など手をふれた場所は消毒用エタノール（７０％以上）で拭いてください。

2　洗濯

便が付着した衣類を扱う時は、使い捨て手袋をしましょう。塩素系漂白剤０．１％に希釈した液（下記、表参照）に６０分程浸してから洗濯します。家族の衣類とは別にします。乾燥後のアイロンがけも効果的です。

患者が乳幼児の場合、おむつ交換の後は、石けんなどを使って手をよく洗い、水で十分にすすぎます。おむつ交換をした場所、使用したおもちゃなどは、消毒用エタノール（７０％以上）で拭いてください。使用済みのおむつは、ごみ袋に入れ口をしっかり結んで出します。

3　お風呂

入浴は、できるだけシャワーのみにし、浴槽に入るときは、体（特に肛門周囲）をよく洗います。また、他の人との入浴は避け、最後に入るようにします。タオルは本人専用とします。

4　調理

体に菌がいないことが確認されるまでは、調理に携わることは避けましょう。

5　通園・通学・仕事（調理従事者）

下痢など続いている時は、主治医に通園・通学の是非について相談しましょう。

直接食品を扱う仕事をされる方は、体の中に菌がいないことの確認を行ってから仕事に従事します。また、家庭での調理も控えてください。

6　プールの使用は避けましょう。

☆消毒液の作り方

汚染された場所は、次亜塩素酸ナトリウム（市販の塩素系漂白剤など）の希釈液で、掃除をしましょう。

			嘔吐物や便の汚染場所　０.１％ 水の量		
			500ml	１．５ﾘｯﾄﾙ	２ﾘｯﾄﾙ
原液濃度	５％	原液の量（ｍｌ）	１０	３０	４０
		ペットボトルキャップの杯数	２	６	８
	６％	原液の量（ｍｌ）	９	２５	３５
		ペットボトルキャップの杯数	２弱	５	７